

各ワクチンの接種の主たる目的や期待される効果の評価について

【背景など】

- 予防接種の効果としては、一般的に、
 - ①集団予防的な効果（集団免疫による流行の阻止）
 - ②個人予防的な効果（個人の発病や重症化の防止）
 の両方の側面があると考えられるが、これらを複合的に有する場合がある。

- 現行の予防接種制度においては、それぞれの疾病や予防接種の特性等を踏まえ、当該予防接種を行う主たる目的や期待される効果等の性格に応じ、接種の働きかけ等の公的関与を分けている。
 - ①一類疾病（努力義務あり）
 - 集団予防的な目的・効果に比重を置いて実施
 - ②二類疾病（努力義務なし）
 - 個人予防的な目的・効果に比重を置いて実施
 - （間接的効果として、その積み重ねによる集団予防的な効果を期待）

【ご検討いただきたい点】

- 上記を前提としたとき、現在、検討対象としているワクチンの接種について、例えば、以下のような点も総合的に踏まえたとき、その予防接種の目的・効果は、集団予防、個人予防のいずれに主な比重がある（いずれの要素が高い）と評価できるか。
 - ・ 予防接種により感染防止が期待される者の規模、重症化の防止が期待される者の規模
 - ・ 感染力の程度や、予防できる疾病の特性からみた社会全体としての影響

< 例 >

- ※ 感染者の一部の者が重症化する可能性が高い場合
- ※ 対象年齢や性別により重症化防止等の効果が限定的な場合

等